

社会医療法人 玄州会 からのご案内

この度、新しく
光武 孝倫 が 理事長
に就任いたします

目次

- ・新理事長あいさつ
- ・光武病院 院長より
- ・在宅ケア総合支援センター センター長より
- ・施設長より
- ・光風

玄州会 新理事長 あいさつ
理事長 光武 孝倫

『25年後開業100年目を見据えて』

この度理事長に就任しました光武孝倫(たかみち)です。

杵岐高校、福岡大学医学部卒業後、同大学第2外科入局、関連病院で修練し、2013年より当院で訪問診療に携わってきました。訪問診療(往診)とは、通院困難な方の自宅や施設に定期的(臨時)に伺って診察を行うことで、比較的安定している方、介護が必要な方、がんのターミナルの方、難病の方など、小児から105歳まで様々な方を診てきました。依頼は全て受ける、家族の一員のように接する、その方がどこで過ごしたいかどんなことを望んでいるかを叶える、この3つが私の当初からの決め事でした。始めた頃は月の訪問件数は200件程度、現在は130〜150件となり、島内の83%は当院が担い、在宅医療の中核として責任を強くしていると心得ます。

社会医療法人玄州会がどんな存在であるべきかと考えたとき、私には明確なイメージがありません。玄州会は、祖父源太郎(げんたろう)が光武医院を開院したのが始まりで、その歴史は1948年にさかのぼります。開院当時、祖父は一人で外来、入院、往診を、24時間365日行っていました。祖父の地域医療に対する情熱と利他の精神、一方でその激務は、自身の川柳に記された「夜のない医者わたしの二十五時」「ああ患者よくをひとりにしてほしい」「休診の札が見えない人ばかり」「生涯を島医者という檻の中」が当時の様子を物語っています。1982年には現在の地に光武内科循環器科病院として移転し、父新人(あらひと)は「一人では医療ができないこと」、「医療だけではなく介護、生活まで守らないと地域医療が成り立たないこと」、「医療格差をなくすこと」、「杵岐の住民



が例え一人になったとしても、病院を継続していくことが私の使命である」と考えました。88床の入院機能、救急から外来、在宅医療まで備える「光武病院」のほか、介護と生活の要として「介護老人保健施設光風」があり、入所、デイサービス、デイケア、パワーリハ、グループホーム、保育園、クリニックを設置、また在宅の拠点として「在宅ケア総合支援センター」を開設、居宅介護支援、ひかり訪問看護、ヘルパー、サービス付き高齢者住宅リバティ、デイサービスリバティを展開してきました。病院光風センターは、救急から外来、入院、訪問診療、介護、在宅、施設、生活まで、どこにいてもどんな状態でも安心を届けられる、杵岐完結型の仕組みへと発展していきま

した。それらを支える職員は非常勤まであわせると390名となり、44名の医師が専門外来や当直でバックアップしてくれています。また、医療格差をなくすため、二次離島でへき地にあたる三島に診療所を2箇所開設し、このへき地医療が認められ、社会医療法人として承認されました。2022年には島内初の病院機能評価の認定を受け、リハビリ部門、栄養課部門、在宅診療部門は最高のS評価を取得しました。一方で、医療の質、安全性、組織体制、各部門の課題も多く分かりました。

そういった課題に取り組み、「かかりつけ医」として地域医療をさらに充実させていくためには、玄州会グループの存在がこれからどうあるべきか。私はまず2048年、25年後を見据えました。少子高齢化で人口は25,000人から15,000人程度となり、働き手が少なくなるなか、「25年後も選ばれる玄州会」になるのか、「存在していない玄州会」になるのか。分岐点は、「多様性の受け入れ」と確信しています。患者様にも、そのご家族にも、職員、どう

た、それがどんな状況でも「他者を受け入れる心」を常に持っているような成長を果たすことで、初めて私たちは医療や介護、福祉を提供できるのだと思います。私たちは教科書に書いてある病気を治すのではなく、病気に関わらずその人の「人生を診ている」のです。一瞬でも不安を取り除き、一瞬でも元気になっていただけると、そして「医療」「介護」「生活」のどの場面でも全人的医療ができる、これこそが光武病院、玄州会グループの存在意義だと考えています。「いついかなるときも、誰でも気軽に立ち寄れる玄州会」「スタバのような玄州会」を目指し、みんなの「笑顔」と「元氣」が自然ともたらされる「心地よい場所」、サードプレイスを提供していきます。

さらに継続のための中期事業計画を「3つの柱」としました。1つ目は、「医職住の安全」です。利用される方への医療やケアの安全と質の向上、職員やその家族の心身の安全と、職場の働きやすい環境整備、住居である病院や施設などハード面の安全に取り

組みます。2つ目は、「MC I with DX」DXによるメデイカル ケア アイランドの実装です。Social ty 5.0 は、人工知能(AI)やIoTを始めとする革新技術によって、人々がさまざまなニーズに合った質の高いサービスを受けられ、活き活きと快適に暮らすことができる「人中心の社会」とも定義されています。ヘルスケアにおけるデジタルトランスフォーメーション(DX)の仕事

組みを積極的に取り入れることにより、診断能力や医療安全の向上、遠隔での診療や見守り、情報の一元化で、適切なタイミングで必要な治療やケアを「オーダーメイド」で受けることが可能となり、予防とともに重症化を最小限に留めることで「健康寿命」を延ばすことを目指します。また、業務分担と効率化で空いた時間を、人にしかできないことに当て、フラットな連携をとることで「組織改革」を行います。3つ目は、機動的資源投入です。「変化を楽しむ」ことを「成長」と捉え投資を行います。安全面とDX化の整備の

ほか、職員の確保、学びの提供、人事考課、そして業務強化のための人材投入等を機動的継続的に行い、強みを生かし「楽しめる職場」にします。祖父から始まった玄州会は75年目となり、父が発展させ、1人が390人に、へき地という医療格差を減らし、地域完結型医療の整備が実現できましたが、これも全職員が老岐のためにやるんだという強い想いが脈々とあるからです。私はそれを受け継ぎ、まずは「25年後も選ばれる病院」つまり「開業100年目」に向けて「3本の柱」に取り組み、「多様性の受け入れ」という「大黒柱」のため

に職員の行動指針を作成し根付かせ、楽しさと幸せを感じられる風土作りを目指していきたいと思ひます。光武病院は「かかりつけ医」機能が全どこでも医療、介護、生活が守れる老岐完結型の機能があります。島内外の医療機関や関連機関と連携を取り、日本一の地域包括ケアシステムに取り組みしていきます。皆さまのための玄州会グループ

光武内科循環器科病院 院長 空閑 毅



光武内科循環器科病院 院長 空閑 毅

光武内科循環器科病院は、住民の皆様がこの老岐で安心して生活していただけるよう、これまでも様々な改革を行って参りました。

- 1【いつでも】24時間365日、急病でも対応できるように救急医療体制を確立
- 2【なんでも】どのような病気でも対応できるように内科・循環器科以外に、皮膚・呼吸器・肝臓・糖尿病・消化器・整形・血液・脳神経内科など各専門外来を開設
- 3【どこでも】無医地区解消のため三島・原島診療所を開設・運営

4【家でも】自宅でも十分な医療を受けられるように往診・訪問看護・遠隔診療などを推進

5【啓蒙・教育】住民・医療介護関係者などを対象に講演会・研修会・勉強会などを開催

6【市内唯一】上記活動が評価され2013機能強化型在宅療養支援病院、2016社会医療法人、2022病院機能評価認定病院に認定

このような状況の中、玄州会の理事長が光武新人から光武孝倫に世代交代することになり、これからさらに職員一同力を合わせ、住民の皆様にとって、より良い病院をめざしていく所存です。そのための方策が、新理事長の3つの柱です。

1「医職住の安全」医療の安全と質向上、職員と家族の安全、快適安全な病院環境を実現

2「MC I with DX」AIやデジタル技術活用で組織改革と人中心社会の実現

3「機動的資源投入」機動的継続的投資で職員・組織の継続的成長を実現(おわり)

在宅ケア総合支援センター センター長 雨海 孝二

在宅ケア総合支援センターの紹介在宅ケア総合支援センターは2012年4月に開設し、現在職員68名で居宅介護支援・訪問看護・訪問介護・通所介護・サービス付き高齢者向け住宅の5つの事業を行っております。在宅部門の拠点であることを踏まえ「利用者様の思いに寄り添い、心身共に健やかに安心して生活できるようなケアに努め、地域皆様の心のよりどころとなるセンターを目指します」をセンターの理念としてまいります。それぞれの事業につきまして簡単に紹介させていただきます。

「居宅介護支援センター」ご利用者の自立支援と望まれる生活を叶えるためのケアプラン（居宅サービス計画）の作成のほか、介護相談、サービスの連絡調整、介護保険関係の申請代行等、ご利用者様の要介護度に基づき適切なサービスを提供します。「ひかり訪問看護ステーション」乳幼児から高齢者まで、比較的安定した病状の方、難病、認知症、精神疾患、終末期など、病気や障害を抱えている方々のご自宅へ訪問させて頂き、血圧測定をはじめとした体調管理、内服管理、リハビリを含めた全身管理から、排泄介助、オムツ交換、入浴介助など日常生活に関することまで幅広く支援いたします。オンコールによる24時間体制で緩和ケアや看取りも行っております。自宅で見取られた際は、遺族の方と一緒に洗髪やお体をきれいにさせて頂き、最後のお姿を感謝の気持ちでお送りいたします。在宅医療の中核としての自覚を持ち、ご利用者及びご家族に満足していただける看護を実践しています。

「ホームヘルパーステーションリバティ」訪問介護事業として他にない特色があります。それは、夜間対応型訪問介護と定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業を行っております。ご自宅にナースコールを設置し、コールが押されたら、電話回線を通じてセンターに繋がるというシステムで夜間対応を行い、頻回の介護が必要と認められた方には定期巡回を行っております。24時間、365日、自分らしい生活を住み慣れた自宅で続けたいだけの方、暖かい思いやりのある介護をお届けしております。

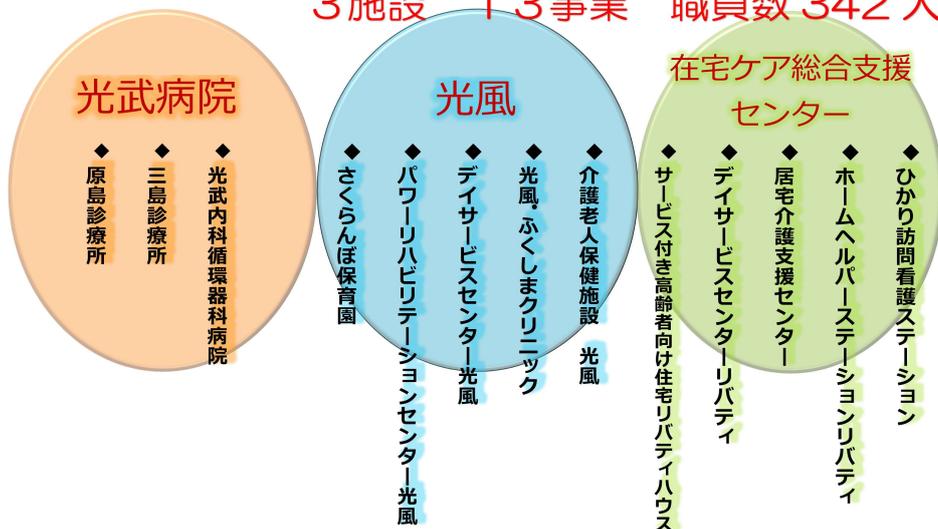


「リバティハウス」高齢者対象のサービス付き賃貸住宅で部屋数は20戸です。安否確認と生活相談から、オプションとしての食事提供、入居者の方が介護や医療の支援が必要となれば介護保険や医療保険それぞれの制度やサービスをご利用いただいております。

「リバティハウス」高齢者対象のサービス付き賃貸住宅でもおられます。今後もご利用者の人生観や価値観に寄り添い、その人らしく人生が送れるよう、満足いただけるケアの提供に努めてまいります。どうぞよろしくお願いたします。（おわり）

玄州会グループ 事業一覧

3施設 13事業 職員数 342人



光武内科循環器科病院、介護老人保健施設 光風、在宅ケア総合支援センターを合わせて玄州会グループです

介護老人保健施設 光風 施設長 福島洋

玄州会で介護部門を担う施設が介護老人保健施設光風です。現在、光風には5つの施設(次の①～⑤)があります。

①介護老人保健施設 光風

1995年に開設した介護老人保健施設(老健)です。老健は、加齢や病気等により介護が必要となった方々が、再びご自宅で自立した日常生活が送れるよう機能回復訓練(リハビリテーション)を行い、在宅復帰を目指す施設です。ここではリハビリを行いながら、日常生活上必要とされる食事・入浴等の介護を受けることができます。入所期間は概ね3～6カ月程度となりますが、それとは別に短期間(1～30日以内)で利用可能な短期入所(ショートステイ)もあります。光風では、ご本人・ご家族のご要望に合わせて入所利用を提供させていただきま

②通所リハビリテーション

通所リハビリテーションは別名デイケアといわれ、日帰り

で利用可能なリハビリを行う施設です。ここではリハビリの他、日常生活上の食事・入浴等の支援も受けることができます。リハビリ内容については次のような種類があります。

【パワーリハビリテーション】

軽い力で動かせる専用機械を使い、衰えた筋肉を動かして刺激を与え、基本動作(座る・立つ・歩く)を行いやすくして身体全体の動きを安定させます。

【個別運動】

専門職員が、ご利用者の状態に合わせて一対一で行います。

【集団体操】

身体機能維持、転倒予防、介護予防、認知症予防目的で行います。

【物理療法】

医療用マッサージ器を使用し、足の腫れ・痛みを軽減させます。

【自主運動】

デイケアやご自宅で、ご自分で出来るような運動、体操の指導を行います。デイケアでは、種々のリハビリを組み合わせて行い、自立した在宅生活が送れるよう支援いたします。

③デイサービスセンター 光風



2004年に開設した日帰りで利用可能な通所介護(デイサービス)の施設です。ここでは静かな環境の中で、日常生活上必要とされる食事・入浴等のあらゆる介護を受けることができます。デイサービスでは、身体状況に応じた介護を提供し在宅生活を支援いたします。

④パワーリハビリテーションセンター 光風

2008年に開設した日帰りで利用可能なパワーリハビリ専用施設です。ここでは手工芸・ゲーム・書道・料理・カラオケなどの活動、毎月の誕生会、各種年間行事を開催し、皆様に楽しんでいただけるよう取り組んでいます。パワーリハセンター光風では、パワーリハと共に種々の自発的・創造的な活動を行い、自立した在宅生活が送れるよう支援いたします。

⑤光風・ふくしまクリニック

2002年に開院した診療所です。病院受診が困難な方への訪問診療を行なっています。老健光風の他にみない特色は、専門の多職種(医療、看護、介護、リハビリ、栄養、支援相談員等)が全て揃っていることです。元気なときから介護予防ができ、たとえ介護が必要になっても専門職が協働して見守れる完結型のシステムとなっています。

◇自分が受けたいケアを行い、自分がされたら嫌なケアはしません。

◇高齢者の人権人格を尊重し「家に帰りたい」思いを叶えます。

◇自立を支援し在宅復帰後もご家族と共に亡くなるまで支え続けます。

◇地域住民に頼られる施設づくりをめざします。

このような光風の理念のもと、ご利用者・ご家族の皆様が住み慣れた地域で安心して、快適に、自分らしい日常生活が継続して送れるよう総合的に支援させていただきます。(おわり)

